

サタデー コラム

養蜂事業、循環型社会に寄与

令和の時代となった今年も残りわずかです。われわれを取り巻く環境はリスクが増し、より不安な時代となっています。リスク過多ともいえる昨今、懸念される一つが気候変動です。今年も台風19号など大災害に見舞われました。気候変動の主因は、経済発展の代償としての温暖化ガスの排出によるものとされています。

今月2日からスペイン・マドリードで国連気候変動枠組条約第25回締約国会議(COP25)が開催されました。主に来年から本格運用が始まる「パリ協定」の詳細ルールについて話し合われましたが、スウェーデンの女性環境活動家グレタ・トゥーンベリさん(16)が米国からヨットで

秋田屋本店社長 中村源次郎氏



大西洋を横断して参加し、危機を訴え、地球環境を守るとの強い信念をアピールしました。この報道は世界中の若者に共感を呼び起こし、「脱炭素社会」を目指す弾みとなり、次世代の意気込みを頼もしく感じました。COP25の開幕と同日、岐阜市内で環境・廃棄物コンサルタント杉山涼子さんの講演会を主催させていただき、演題は「持続可能な社会と私たちの暮らし」SDGsおよび循環型社会への取り組み」でした。SDGsは国連で2015年に採択された持続可能な開発目標です。30年までの国際社会共通の目標

として、17の目標が掲げられていますが、環境に重きが置かれています。講演では専門分野の食品ロスや海洋プラスチック、さらに気候変動や循環型社会についても分かりやすく説明され、対策を教示いただきました。「全ての人が当事者であり、傍観者ではない。その人なりの一歩を踏み出していくことが大事」との言葉が身に染みました。より多くの人々にこの講演を聞いてほしいと思いました。SDGsやCOP25はグローバルに地球規模で環境を守り、持続可能な社会をつくる活動として展開されていますが、まず

は参加し行動を起こすことが大切です。そんな思いで足元を見ました。わが養蜂の仕事は地球に優しく、循環型社会の好例であると、改めてミツバチへの感謝の気持ちが湧いてきました。

講演後の6日に、毎年恒例の県養蜂組合連合会主催の蜜源植物増殖事業を実施しました。今年には旧中山道の宿場、瑞浪市の旧大湫小学校周辺で、県内養蜂家、地元関係者総出で、晴天の下、植樹をしました。次世代に向けて持続可能な開発に寄与できる喜びを感じました。

仕事を通して、またボランティア活動としてアクティブに環境に向き合い、次世代につないでいくことが社会的責任を果たすことだとの思いで、これからも環境運動を進めていきます。

なかむら・げんじろう 1951年、岐阜市生まれ。博士(医学)。県経済同友会筆頭代表幹事。岐阜南法人会長。県製菓協会会長。みつばちの家庭理事。県養蜂組合連合会長。岐阜放送番組審査委員会委員長。岐阜県フェンシング協会会長。県立岐阜北高校同窓会長。